

C-3 班：寒さに耐える会

テーマ：学生がのびのび自由に学習できる大学

【大学の役割について】

私たちは、大学の役割は主に「社会が求める人材の輩出」であると考えた。現在の学生にはこれまで小学校から高校まで経験してきた「受け身」の教育を抜け出し、自ら進んで勉学に励む姿勢が求められている。それは、企業が「自分で問題を解決する力」や「自分の意見を伝える力」を学生に求めているからである。つまり、学生は大学を卒業するまでに専門知識の習得だけではなく、先に述べた2つの能力を養う必要がある。

以上の現状を踏まえてグループ討議を行った結果、「社会が求める人材」とは「自らすすんで学び、物事に取り組む力を持った人材」とあるという結論に至った。

【大学の現状】

私たちグループの大学の現状を考えると、必ずしもこのような能力を備えた学生を数多く育成できているとは言えない。その考えられる原因として、大きく以下の2つが挙げられた。

- ① 予習・復習の習慣が身につけていない学生が多い。
- ② 自主学習のための設備、空間が足りない。

理系・文系の差はあるが各大学で開講されている科目には、予習・復習にそれほど多くの時間を割かずともそれなりの成績を修め、単位を修得できるものが多くあった。また、単位修得そのものが目的となってしまうそれ以上の専門的な知識の習得などには至っていないケースも多く見受けられる。

また、教室以外の場所で自主学習を行うことができるスペースが不十分なことも原因の一つとして考えられる。特にプレゼンテーションやディスカッションの準備をするためのグループ学習室がない、またはあまり活用できていないことも現状の課題である。

【大学のイノベーションの提案】

学習面においては、講義のなかで「学び方」が身に付くような内容を展開し、自ら考え・行動できる学生を育成する。また、特定の授業を録画し、いつでも視聴可能とすることにより、時間・場所を問わず予習・復習できる仕組みをつくる。

施設面においては、学生が自由にプレゼンテーションの練習やディスカッション等ができるスペースを設け、主体的に行動できる学生を育成する。